

2011/1/29

「合唱指導ワークショップ本番」

芸術創造センターで合唱指導のワークショップがありました。
午後1時から3時までみっちり2時間。濃い時間でした。
あんなに集中したのも久しぶりのような。



大門先生は、富山のご出身ということで、合唱指導のワークショップに来てくださったそうです。東京芸大の音楽科を出られてから、ドイツに留学。現在は東京ご在住で、何千人もの大合唱の指導や、10 団体もの合唱団の常任指揮者、そして日本合唱指揮者協会の理事もなさっているそうです。

まず、駒見先生の指揮で「花の心愛の心」を歌いました。大門先生のほかに、重松先生もいらっしゃるし、ほかにすごそうな(?)先生も...協会事務局の方も...。ほんと緊張の中で歌い、なんだかわけのわからないうちに歌い終わりました。...一瞬の静寂のあと、「とりあえず」の拍手ぱちぱちぱち👏...こわ😨...



大門先生がドスドスドスと出てこられました(普通に出て来られたんだけど、体格が体格なので...👉)(何を言われるんだろ?(;-_-))最初に言われたのは「せっかく指導の先生がみなさんのために作ってくれた曲なんですから、もっと大事に歌ってください」...(キャー、そうきたか!こんなに大事に歌っているつもりなのに、粗末に歌っているようにしか聞こえないんだ〜👉👉👉👉👉)

そこから大門先生ワールドが繰り広げられました。どこをどう直せば大切に歌うことになるのかということ、あの手この手で教えてください。笑わせたり、他の話しに拡がったり、キュッと集中させたり、また笑わせたり、キリリと緊張させたり。」

楽譜をよく見て。・・・二分音符をしっかり最後までのばしているか、ブレスをどこでするのかわかってるのか、クレッシェンドがあるのをみているのか、rit.が書いてあるのに気づいているのか...などなど。 むむむむ～なるほどなるほど💡 * 大事に歌うというのは、それもあったか!!
そういえば、楽譜をそんなに丹念に見てなかったかも～😓と気が付きました。

歌は母音の色で決まる・・・そうなんだ～😄💡 って、納得したような気分なのですが、私はわかったのかどうか...あやし～👉

『花の心愛の心』の出だしでも、「空に浮かぶ虹の橋～♪」というのを、音の上がり下がり音色を変えては、一本のラインとしての歌にならない、とのっけから言われました。言われてみると、これもな———るほど💡💡でした。いちいち言われませんでした。きつと他のところでも滑らかなラインじゃない部分が多々あるんだろうなあと思いました。それに気付いてほしくて、母音を大切にと繰り返し言われたのだろうと思います。ふ～ん、母音ね—👉.

緩急をつけて

「強いその力は～♪」は盛り上げて力強く歌う、その次に来る「花の心愛の心～♪」は優しく優しく。「愛おしむ心」の部分はハートマークを心に浮かべながら...。歌に表情をつけて歌うことの大切さを言われました。

『ん』や『え』『い』などの発声に気をつけて

『自然』という言葉の発声が汚い、と💡「自然に何か恨みでもある？」で大笑いをさせながら、言葉の発声に気を配ることの重要性を心に刻ませてくれました。

ブレスは、次に出す音の高さで吸う

んんん～👉💡これはわかるような、わからないような...そのうちわかるかなあ...。とりあえず試してみます。

あと、『転調した時の雰囲気の違いを意識すべき』、ということや、半音で上がっていくところが安定しなくて、課題として残りました。

『ビリーブ』については、

語尾は優しく、でも最後まで責任を持って大切に

ということをいわれました。語尾を押さず、優しく歌うことを心がけてきたのですが、優しく歌うということは、『飲み込んでしまう』という事とは違う、と言われました。前にだしながらも優しくということかな～。ここでも『え』の発声をつぶさないこと、と言われましたが、かといって外国人みたいに発音するのもおかしいので、ほどほどに...ということでした。

輝くところは輝いて！

『ビリーブ』は、明るい歌なので、転調してはじけるように輝くところは、輝きを持って歌うことを

